



小林市立小林小学校

校長通信

令和6年8月26日

第54号

(文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3510

E-mail: 1401eb@miyazaki-c.ed.jp

子どもに身に付けてほしいもの

夏休みを終えて、元気な子どもたちの声が学校に戻ってきました。」外出を控えて」と呼び掛けられるほどの気温の中では、夏休みの過ごし方もいつもと違ったのではないのでしょうか。

さて、8日(木)には、大きな地震が起きました。日南市では多方面に被害が見られたようです。小林が同程度の震度だったらどんな被害が出たのでしょうか。

人間とは不思議なもので、どこか「自分だけは大丈夫。」と思いがちです。これを「正常性バイアス」というそうです。しかし今回は、どんな自信家でもこのバイアスが揺らいだことでしょう。

今は、情報がすぐに手に入るなど、体制は整えられています。あとは、「べい」行動するか。」です。改めて心構えの大切さを子どもたちにも伝えていきたいと思えます。

大変ぶしつけですが、お子さんには、どんな大人に育ってほしいとお考えですか。私も教職員に同じ質問をされれば、難しい法律用語が正解なのかもしれませんが、気持ちとしては「社会に出て、一人で暮らすようになって、自分の生活を乱さず、周りの人にも愛され、ストレスに負けずに仕事を続け、経済的にも自立した生活を送ってほしい。」こんな答えになるのかもしれませんが、このような思いは、保護者の皆さんとそんなに大きくずれてはいないと思えます。

社会に出て生活するために、集団社会の一員として生きていくための「社会性」が必要です。人は、一人で生きていくにはあまりに弱い生き物です。から「社会性」は生きていくための基盤ともいえます。では、「社会性」とはどんなふうにつけていくものなのでしょうか。

【0歳〜1歳】
スキンシップを通して深い愛情を感じ、人を信頼することを身に付ける時期です。

【2歳〜3歳】
遊びからケンカになることもありますが、時には、子どもがケンカを通して学ぶ様子を見守ることも必要です。

【4歳〜5歳】
多くの人と関わり始めます。相手に失礼な行動をしたときには大人がその場で諭すことも大切です。ヒーローやお姫様になりきったり、集団で遊んだりすることもできるようになります。(「Golemi」参考)

成長に応じた親・他者とのかわりや、ごっこ遊びを通してトレーニングが「社会性」を育てることに重要な意味をもっているようです。

思い返せば幼いころ、よその家に遊びに行きたびに軽いシヨックを受けていました。それは、自分の家がすべてだと思っていた私が、よその家の生活ルール、言葉遣い、礼儀、食事など様々な違いに出会ったからです。「〇〇ちゃん、この家で、この決まりの中で生活してるのか。」と、いつもの友だちが少し違って見えました。このような経験を繰り返して自分が知らない世界や考え方への理解と寛容を身に付けていくのでしょうか。

よその家で遊ぶ子どもが少なくなつたという記事を見ました。プライバシーを尊重する現代ではしかたない面もあります。しかし、自分の家、考えだけに閉じこもって、他を理解したり尊重したりする態度を身に付ける機会を逃してしまいます。子どもに寄り添いながら、いろいろな経験を乗り越えさせることも必要なかもしれません。

コロナの対応は見直されましたが、コロナ禍で学んだ感染予防は今も通用します。こまめな手洗い、換気、何より規則正しい生活リズムで体調を整えましょう。

感染予防を続けましょう

コロナの対応は見直されましたが、コロナ禍で学んだ感染予防は今も通用します。こまめな手洗い、換気、何より規則正しい生活リズムで体調を整えましょう。

学校スナップ 「夏休みの先生たち」

プールが始まる前には、心肺蘇生法の訓練を行いました。プールが稼働している間に、現場での対応訓練を行いました。

子どもが溺れた状況を再現しながら、プールから引き上げる際の留意点や連絡の方法などを確認しました。



警察の方を講師に不審者対応訓練を行いました。

実際に警察の方が侵入者役をしてくださり、迫力あるやりとりで緊張感のある訓練となりました。

